



OSAKA UNIVERSITY
OF ECONOMICS AND LAW
大阪経済法科大学

LIBERA

volume

75

2009



特集

現代を生きる教養

マルチメディアを活用した教養教育「視聴覚英語」
(ジェイソン・ジョーンズ教養部講師)



【特集】

現代を 生きる 教養

「教養」という言葉から、学生の皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。テレビのクイズ番組で、高得点を獲得できること、難しい漢字や幅広い分野について知識が豊富なことが、「教養がある」と思われるかも知れません。父母・保護者の皆さんには、戦前の旧制高校で難解な哲学書や文学書を読みふけり、その分野に精通した読書家を「教養ある知識人」であると思いい、現代では、社会で活躍できる専門知識が重要だから「教養」は無くても困らないのではと感じている方もおられるでしょう。

大学においては、戦後の新制大学発足以後、教養教育は「一般教育」として位置づけられていましたが、1991年に大学設置基準上の科目区分としては、「一般教育」が無くなり、学部専門教育をどう早期から充実するかということに比重が置かれました。

大阪経済法科大学では、建学以来一貫して、経済学部、法学部のそれぞれの専門分野において、深く知識を身につけると同時に豊かな人間性と国際感覚にあふれ、独創的で、実践力に富んだ人材の育成を目指してきました。

そのため、学部の専門教育の共通の土台となる基礎能力を養うと同時に現代社会が直面する諸課題について、国際的な視野で分析し、実践的に解決する能力を養うため、幅広い分野の共通教育科目を開講しています。あわせて、学際的なテーマについて、専門教育科目と共通教育科目を組み合わせて、集中して学ぶことのできる副専攻制度を設けています。

今回の特集では、経済学・法学の学士課程教育の中で位置づけられる本学の教養教育について、能動的に学ぶ学生の姿を交えて紹介したいと思います。

大阪経済法科大学学報 [リベラ]

LIBERA

volume 75/2009



2009年9月30日発行
【編集】
大阪経済法科大学事務局庶務課
〒581-8511
大阪府八尾市楽音寺6丁目10番
TEL072・941・8211
FAX072・941・4426

<http://www.keiho-u.ac.jp/>

「LIBERA (74号)」の訂正とお詫び

7月24日発行の「LIBERA」74号において誤記がありました。ここに訂正するとともに、ご迷惑をおかけしました読者並びに関係者各位にお詫び申し上げます。

17ページ
(大学教員として活躍する卒業生)
切詰和雄(誤)→切詰和雅(正)
物件法(誤)→物権法(正)

CONTENTS

3 特集

現代を生きる教養

現代を生きる教養を考える。
学生から見た教養

8 [スチューデントパワー]

阪南キャンパスで就職合宿を実施
八尾市吹奏楽フェスティバルに参加
各種資格・検定試験等合格者速報
春季課外活動戦績 他



10 2008年度大学決算・事業報告

14 [経法タイムス]

証券・保険会社提供寄付講座を開講
地域IT講習会、中学生サマーセミナー開催
「刑事弁護士が語る裁判員裁判」刊行
平成21年度科研費補助金採択状況 他

17 [校友会だより]

設立10周年記念
第11回校友会総会・懇親会



18 [国際交流通信]

姉妹校国際学生交流セミナー2009
秋学期交換留学生受入れ
留学生ボランティア語学講座 他



20 [元気いっぱい!躍動する経法生]

小林 穂奈美さん(経済学部・1年生)

現代を生きる教養を考える。

大阪経済法科大学学則第1条は、「建学の理念に基づいて、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性と国際感覚あふれた、独創的で実践力に富む人材を育成し、もって社会の発展と平和に貢献することを使命とする」と定めています。

この大学の使命に基づき、「法学部は、基礎的な法学教育を土台として、法と政治についての高度な専門知識を授け、正義と公平を旨とするリーガルマインドをもつて現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民の育成を目指して、教育研究を行う。」(学則第2条3項)、「経済学部は、経済学及び経営学を中心とする幅広い専門知識とその実践的応用能力を授け、グローバル化する現代社会の諸課題に創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。」(学則第2条2項)として、両学部の育成する人材像が明らかにされています。

大学の教養教育

大学の教養教育は、このような教育目的に沿って実施される学士課程教育にとって、2つの意味で重要な役割を果たしています。

まず第一に、教養教育には、専門分野の土台となるような知識・能力や態度を培い、学生を自律的な学習主体へと導く役割があります。

現在では、多様な学生が、多様な目標を持って大学に入学してきます。そのような学生に対して、本学では、初年次教育プログラムに含まれる基礎科目を通じて、自律して学習する志向性、強い学習意欲、プレゼンテーションや情報収集を効果的に行うスキル、基礎的な外国語能力、IT



スキルを身につけ、自律して学習できる主体となることを目標としています。さらに、一般教養科目は、豊かな人間性を養い、専門分野の共通の土台となるような教養について、4年間専門科目と並行して履修できるように、哲学、歴史、文学などの伝統的な科目だけでなく、現代的なニーズに応える情報分野や学際分野の科目、将来の職業・進路選択に結びつく科目を配置しています。

現代的な視野を与える副専攻

次にあげられる教養教育の役割は、経済学、法律を学ぶうえで、より現代的な視点を与えることです。全学共通科目の総合科目は、人文、社会、自然、情報、学際、健康、異文化理解の7分野について、それぞれの学問分野について、発展的な学習ができるように豊富な科目を開講しています。個々の科目に加えて、大学の教養教育では、国際教養、情報、環境という学際的なテーマについて、本学独自のカリキュラム、副専攻を設けています。2009年度からは、「国際教養副専攻(東アジア文化)」と「環境副専攻」の

メテッドやお」と協力して、環境保護活動を体験・実践する「環境フィールドスタディ」に参加し、東京商工会議所が実施している環境技能検定「eco検定(環境社会検定試験)」の合格を目指し、幅広い視野で環境社会を考える能力を身につけます。

2つを加えて、以下に述べる4つに拡充しました。副専攻では、関連する共通教育科目と専門科目を組み合わせて、学生に身につけてほしい、知識・能力を多面的に示しています。副専攻には、「海外フィールドスタディ」、「海外インターンシップ」、「環境フィールドスタディ」等の体験学習と、TOEIC、中国語検定、ITパスポート、eco検定をはじめとする技能検定を組み込んでおり、知識だけでなく、体験的な技能を磨くことができるように設計されています。

(1) 国際教養副専攻

(英語・中国語・韓国語コミュニケーション)
海外留学プログラムへの参加を前提に、語学力に裏打ちされた歴史・文化に対する知識をはじめ、国際社会・異文化への理解を育むことで、国際化時代に相応しい知識と技術を身につけます。

(2) 国際教養副専攻(東アジア文化)

東アジアの文化・歴史・社会の諸事象を総合的に学ぶことによって、当該地域に対する幅広い知識と理解力を身につけ、東アジア及び世界の舞台で活躍できる豊かな国際性を身につけます。

(3) 情報副専攻

インターネットの普及、経済のグローバル化などの構造変化によって、情報技術(IT)の活用が拡大しています。あらゆる産業分野では、Webによる新規ビジ

ネスの開拓や、システムの全体最適管理など、情報技術は企業競争力の主要な源泉となる一方、インターネットを悪用した詐欺や個人情報情報の漏洩など新たな法的な問題が発生しています。このような状況の中、専門分野で学んだ知識と情報技術に関する知識やスキルを統合し、さまざまな提案や問題解決ができる人材が求められています。

情報副専攻では、経済学や法学の専門分野を学びながら、「ハードウェア論」、「ソフトウェア論」、「情報システム論」、「情報科学演習A・B」など情報に関する科目と「経営情報総論」、「eビジネス論」などの専門科目を体系的に学び、国家資格である「ITパスポート」の取得を目指して、高度な知識とスキルを身につけます。

(4) 環境副専攻

地球温暖化や酸性雨、オゾン層の破壊、砂漠化の進行、生物多様性の減少など山積する「地球環境」の実態と原因を考え、京都議定書や温暖化ガス削減に向けた新たな取組に関する世界の動きについて学びます。また、環境ビジネスや省エネルギー技術、3R(リデュース、リユース、リサイクル)政策、リサイクル法など持続可能な発展を実現するための環境経済的な取組や環境政策、環境法について学習します。これらの学習に加えて、地元・八尾市の環境保護団体である「環境ア二

以上のような副専攻を通じて、①専門分野を今日的に把握することで、現代的な視点から専門知識を身につける、②現在の社会で問われている課題に対して、実践的な問題解決能力を身につける、ということができます。それを具体的に法学部、経済学部で見ると、法学部では、「リーガルマインドをもつて、環境問題を解決できる人材」や、「人権・平和の問題を、国際的な視野で論じ、取り組むことのできる人材」、「経済学の専門知識を持って、ITスキルを活用して経済を分析することのできる人材」になります。

ここまで見てきたように、大学の教養教育は、中央教育審議会(中教審)が、答申(2008年12月)の中で提唱した「学力」に含まれる「知識・理解」、「汎用的技能」、「態度・志向性」、「統合的な学習経験と創造的思考力」という能力を網羅していると考えられるでしょう。

学生から見た教養

本学の学生は、現代を生きる教養をどのように捉えているのでしょうか。IT（情報技術）国際、環境の分野で積極的に取り組んでいる在学生のインタビューを通じて、学生から見た教養とは何かを考えてみましょう。

資格取得と実践を通じて、ITスキルを身につける。

涌本孝之さん（経済学部・3年生）

情報スキルプログラム履修・初級システムアドミニストラータ試験合格・IT企業インターンシップ参加



涌本孝之さん（6号館PCラウンジで）

1年生の時に、コンピュータに関心があったので、その年（2007年）に始まった「情報スキルプログラム」の「情報システム論」、「ハードウェア論」、「ソフトウェア論」、「ネットワーク論」を履修し、まずインターネットの世界標準資格である「CIW（Certified Internet Webmaster）アソシエイト」に挑戦し、合格しました。その上で、構造改革特区認定講座（特区講座）を受講し、免除試験を受けて、初級システムアドミニストラータ（初級シスアド）試験の午前試験免除の認

定を受けることができました。2年生になると、「情報科学演習A・B」を履修し、初級シスアドの午後試験関連の内容を学習しました。範囲を絞って勉強できたので、無事初級シスアド試験に合格することができました。情報スキルプログラムの段階的な学習は、ITスキルを自然と身につけるために、非常に役立ちました。

同時並行で、2年生から専門演習で更にIT関連の学習を行うため「IT特別プログラム」を履修しました。「IT特別演習」と「演習I・II」でIT活用技術と経営への影響について学び、演習専用の教室、「ITラボ」もできて、自由に学ぶことができました。「IT特別演習」では、日本橋の電気街へ出かけて買った部品を使って、ITラボで使うPCを自作し、ネットワークの構築もしました。その上で、「環境アニメイテッドやおのWebサイト制作と運営」にも関わりました。

特別演習では、学外の学生ビジネスコンペにも参加しました。夏休みをまたいで4ヶ月程かけて、各自が分担を決めて、携帯電

話のナビ機能を使った新ビジネスについて、企画書にまとめました。集中して取り組んだので、達成感を感じることができました。私は、このときに取り組んだ携帯電話端末の将来の可能性について、興味を湧き、その後も調査を続けています。できれば、卒業論文のテーマにできればいいなと考えています。

私は、もともと金融、証券業界に興味があったのですが、今年の夏休みに関西電子情報産業協同組合（KEIS）で募集されたOA・ネットワーク分野でのインターンシップに参加して、IT業界への就職がいかなく思うようになりました。受け入れ先は、シーシーエスという財務・金融システムを主に開発している会社で、初歩からシステム開発の流れを学ぶことができました。決められたプログラム言語で電卓プログラムを作り、それをテストして完成させるという内容でした。研修中に課題を完成してみて、プログラマーやシステムエンジニアの実務を垣間見ることができて、魅力を感じました。

留学と国際交流の機会を最大限に活用

五条太一さん（法学部・4年生）

ロンドン大学留学・食品メーカー内定



五条太一さん（ロンドン大学にて、写真中央）

高校時代から英語は得意だったのですが、大学入学当初はそんなに熱心には勉強していませんでした。英語の担当教員から、自分の経

験を踏まえて、留学すれば英語が身につくだけでなく、視野が広がって、きっと将来役に立つと勧められて、留学を決めました。留学先としては、大学から大勢参加するオ

ーストラリアやカナダだと自分たちだけで固まってしまうので、敢えて参加者の少ないイギリス・ロンドン大学を選び、2年生の秋学期にASP（アカデミック・スタディ・プログラム）で留学しました。初めての海外経験でしたが、レベルに合わせて英語や専門科目を学ぶことができ、ヨーロッパを初め世界中から集まった留学生と出会うことで、さまざまな価値観を持った友人ができ、自分の価値観を別の角度から見直すいい経験ができたと思います。出発前には英語でのコミュニケーションにかなり苦労していたレベルでしたが、帰国後に受験したTOEICのスコアは以前の700から910までアップしました。

帰国後は、平和と安全保障、地球環境保護、国際的な人権の保障などを扱う「国際法I」、独自の法体系で現在も世界的に影響を及ぼしているイギリス法、アメリ

ニッポンバラタナゴの保護から環境問題に取り組む

藤本康嗣さん（経済学部・3年生）

学生研究団体「ECO〜る∞KEIHO」所属

私が最初に環境問題に関わったのは、1年生の大学演習で、「八尾環境フェスティバル」に全員で参加した時でした。2年生になって、能塚教授の演習Iで、「環境問題に取り組むグループがあるから参加しないか」と

「ECO〜る∞KEIHO」を紹介され、ふれあい池のニッポンバラタナゴの保護活動、河内木綿の栽培等、生物多様性の保護の観点から取り組んできました。

授業科目でも、「環境論」、「環境経済学」、「農業経済学」、「地域生活と経済」は環境問題、八尾の環境を理解するために役立ちました。経済学の立場から「タナゴの環境的な価値と保護」について卒業論文をまとめたいと考えて、今は、地域でのアンケート調

査を行っているところです。10月18日には「八尾環境フェスティバル2009」が本学で行われるのでこれから本格的にその準備が忙しくなりますが、ぎゅっちりというり遂げたいと思います。



藤本康嗣さん（学内で栽培する河内木綿の前で）

TOPICS

女子学生及びキャリア開発 特別講座生による就職合宿を開催

企業へのエントリー解禁に伴い、3年生の就職活動が本格的にスタートする10月を控え、就職ガイダンスの中身をより深く理解し、実践できるよう、2つの「就職合宿」が本学阪南キャンパスで行われました。

8月9日(日)・10日(月)に行われた「女子学生就職合宿」では、就職ガイダンス担当講師の道盛陽子氏を迎え、「女性のハッ

「文化博覧会」を開催

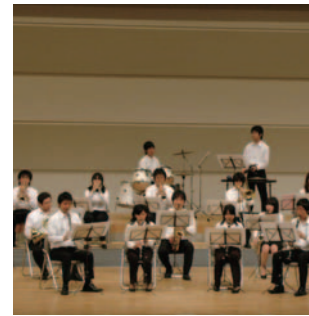
7月9日(木)・10日(金)の2日間、3回目の開催となる文化博覧会が、八尾市文化会館ブリズムホールで開催されました。

この文化博覧会は、文化会に所属するクラブの学生たちが、日頃の練習成果の発表や各クラブ間の交流、また文化会に所属する学生以外との交流を深めることを目的に開催されているもので、1日目は音楽系・ダンス系クラブによる華麗なパフォーマンスが、2日目は、展示系クラブによる作品展展示会や囲碁部、将棋部に

よる対局などが行われました。

八尾市吹奏楽フェスティバルで 本学吹奏楽部が演奏を披露

7月19日(日)、第22回八尾市吹奏楽フェスティバルが、八尾市文化会館ブリズムホールで開催され、本学吹奏楽部が演奏(のうた「キセキ」ほか2曲)を披露しました。



八尾市内の中学校・高校、大学、社会人バンドが一堂に会して行われるこの吹奏楽フェスティバルは、八尾市等の主催で毎年夏に開催されており、当日は2000名を越す来場者がありました。

女子バレーボール部が大森素子杯に ボランティアスタッフとして参加

8月10日(月)、八尾市総合体育館ウイングで開催された「第5回大森素子杯 in 八尾CUP」に、本学女子バレーボール部員3名がボランティア・スタッフとして、審判員などを務めました。

大森素子杯は、バレーボー



ルを通して青少年・少女の育成、未来の全日本選手の発掘などを目的に開催されており、昨年8月の第1回記念大会は、本学総合体育館が会場として使用されました。



講演に聞き入る「女子学生就職合宿」の参加者

速報 各種資格・検定試験等合格者(中間報告)

2009年9月15日現在

【経済系】

- 日商簿記検定試験1級(2名)
- 日商簿記検定試験2級(5名)
- 日商簿記検定試験3級(12名)
- FP技能検定試験2級(1名)
- 販売士検定試験3級(18名)
- ビジネス会計検定試験2級(2名)
- ビジネス会計検定試験3級(6名)

【法律系】

- ビジネス実務法務検定試験2級(3名)
- ビジネス実務法務検定試験3級(27名)

【情報系】

- 基本情報技術者試験(3名)
- CIWファンデーション(1名)
- 初級システムアドミニストレータ試験(4名)
- マイクロソフト認定アプリケーションスペシャリスト【Word】(30名)
- マイクロソフト認定アプリケーションスペシャリスト【Excel】(29名)
- マイクロソフト認定アプリケーションスペシャリスト【Power Point】(2名)

【語学系】

- TOEIC【450点以上】(1名)
- 日本漢字能力検定試験2級(1名)
- 日本漢字能力検定試験準2級(2名)

【スキルアップ・福祉系】

- 秘書技能検定試験2級(10名)
- 福祉住環境コーディネーター検定3級(4名)
- eco検定(5名)

【大学院】

- 滋賀大学大学院経済学研究科(1名)
- 立命館大学大学院公務研究科公共政策専攻(1名)

【公務員】

- 国家公務員Ⅱ種(1名)
- 京都府警(2名)
- 愛媛県警(1名)
- 堺市消防本部(1名)

春季課外活動戦績

各クラブのリーグ戦等で、熱戦が繰り広げられました。10月以降も多くのクラブで公式戦が予定されています。一緒に経法大生を応援しましょう!

団体種目	大会名	大会戦績
卓球部	関西学生卓球連盟春季リーグ(1部)	男子:3位 女子:7位
	関西学生卓球新人大会	男子:ベスト8 女子:ベスト8
バスケットボール部	関西学生バスケットボール選手権大会	男子:ベスト16
バレーボール部	関西学生春季リーグ(男子2部・女子6部)	男子:7位 女子:7位
軟式野球部	西都大学軟式野球連盟春季リーグ(2部)	優勝※1部復帰
硬式野球部	阪神大学野球連盟春季リーグ(3部)	3位
サッカー部	関西学生リーグ(3部)	5位
バドミントン部	関西学生春季リーグ(6部C)	男子:3位
空手道部	西日本大学空手道選手権大会	女子:ベスト8
個人種目	大会名	大会戦績
卓球部	関西学生卓球選手権大会	男子ダブルス:ベスト8 女子:シングルスベスト16
テコンドー部	大阪府テコンドー選手権大会	男子3階級優勝(フライ、バンタム、フェザー級) 女子2階級優勝(フィン・フライ、バンタム・フェザー級)
空手道部	全日本空手道選手権大会	男子:個人組手ベスト32
サンボ部	全日本サンボ選手権大会	3位(エスポワール57kg) 3位(エスポワール62kg)



2008年度大学決算・事業報告

2008年度大学決算が、2009年5月25日の理事会で承認されました。収入は、学生生徒等納付金収入36億5千万円、手数料収入5千万円等、合計67億8千万円となりました。これらは全て、教育研究活動、学生サービス及び施設・設備の充実のために活用しています。支出は、人件費支出20億円、教育研究経費7億7千万円等となりました。

2008年度 大学事業の概要

■特色ある

■学士課程教育の充実

法学部では、学生二人ひとりの志望に応える専門教育と学修支援の施策を二層強化するために、法曹コース、公務員コースの個別指導体制の充実を

図りました。「法学検定」の受験指導を強化し99名が合格しました。さらに公務員志望学生を指導する「公務員論Ⅰ・Ⅱ」を開講しました。その結果、法科大学院延べ15名、公務員延べ20名、行政書士3名の合格者を輩出しました。

学生の学ぶ意欲を高めるため、法学部学生研究発表大会、法学部公開シンポジウム、学生顕彰論文事業等の多様な教育プログラムを実施しました。

経済学部では、多様な学生の志望に応える幅広い専門教育を実施するために、会計ファインانسコースとITキャリアコースを新設しました。また、難易度の高い資格を目指す特別プログラム(会計専門職、IT、EREMикро・マクロ)を導入しました。

体験学習の一環として、「地

域フィールドスタディ」や経済学会との協力によるビジネスコンペ事業等を行いました。

経済学部では、公務員試験8名、専門職大学院をはじめとする大学院6名、簿記検定試験60名等の合格者を輩出しました。

教養部では、特色ある教養教育を推進するため、新規の環境副専攻の開始に向けた準備を整えました。また、国際教養副専攻の強化と、情報副専攻を中心とする情報教育の充実を行っています。

■初年次教育の充実と 授業改善

新入生の大学教育への適応を促進し、学ぶ意欲を高めるため、初年次教育を二層充実させました。「大学演習A・B」において、チューター(担任)・サ

ブチューター(副担任)・メンター(先輩学生)間の情報共有を進め、きめ細かい教育支援を行っています。

さらに、教育力の向上に向け、大学教育開発支援センターと法学部、経済学部、教養部、教務部が連携して授業改善を推進しました。授業公開を発展させ、授業研究及びモデル授業作りなどに取り組んでいます。

■特修講座(Sコース)・ 資格講座の発展

本学独自の専門職業養成プログラムとして、4つの特修講座(Sコース)をはじめ、18の資格講座・31のコースを開講し、経済学検定講座やビジネス会計検定講座を新設しました。

これらの講座における受験指導体制を強化することで、難関試験や法科大学院・専門

職大学院等の合格実績を着実に増加させ、延べ880名の資格・検定試験等の合格者を輩出しました。

■特色ある国際教育を推進

国際的なコミュニケーション力の養成等に向け、国際教養副専攻を中心に、特色ある国際教育プログラムを推進しました。

英語圏や中国、韓国等海外へ留学できる体系的な制度の整備を進め、2008年度は、海外の姉妹校等へ83名の学生が留学しました。

米国カンザス州立エンボリア大学との協定締結により、本学の国際ネットワークは、ロンドン大学、北京大学等、海外16ヶ国・地域38大学・研究機関となりました。これまでの国際交流事業の成果を踏まえ、活発な交流を展開しています。

■情報教育の充実・高度化

情報化社会の進展に対応し、

実践的なIT活用能力を修得することを目指して、情報副専攻を充実させ、経済学部ITキャリアコース、経済学部IT特別プログラムを新設しました。「IT特別演習」の拠点として「ITラボ」を開設することで、多彩な実践活動が可能となりました。

その結果「MCAS(Microsoft Certified Application Specialist)175名、初級システムアドミニストレータ試験36名、基本情報技術者試験3名にのぼる合格者を輩出しました。

■学生の希望進路の実現に 向けた施策

厳しい就職情勢の中で、就職活動を続ける学生を支援し、総合的キャリア支援システムの充実に努めました。

「YESプログラム」(コミュニケーション能力の育成と各種の資格取得)、「インターンシップ講座」や「大手・上場企業就職希望者対策特別講座」の拡

充、学内合同会社説明会や個別キャリア相談の充実、キャリアアカウンセラーによるキャリア相談等を総合的に実施し、学生の就職活動を支援しました。また、インターネット求人検索システム[NICE JOB System]を改善し、求人情報の円滑な提供を行っています。2008年度の就職率は、95.7%となり、ほぼ全ての学生が希望進路を実現しています。

■研究活性化、地域連携・ 社会貢献を推進

研究活動を活性化し、地域連携・社会貢献を二層推進すべく、経済研究所、法学研究所、総合科学研究所及び科学技術研究所を21世紀社会研究所、地域総合研究所に再編統合し、これまでの成果を引き継ぎ、研究体制の整備・充実を進めています。「科学研究費補助金」の受給件数と受給額は、2008年度9件1261万円、「科学研究費補助金分担金」は、

3件291万円で、合計1552万円となりました。また、総務省の「戦略的情報通信研究開発推進制度(SCOPE)」による補助金の交付を受けています。

■施設・設備のさらなる整備

教育環境の整備のために、1・2号館中教室等の視聴覚機器の新設・更新、各種教室の音響機器の更新等を行いました。また、ゼミ棟・2号館の屋上防水工事、I.S.D.布施の空調設備更新工事、各種バリアフリー工事を実施しました。

教育力のさらなる向上と、快適な学生生活を支援するため、施設・設備の整備を推進するとともに、施設における居住性の改善、施設の利便性・安全性を確保し、将来の発展の基盤となるキャンパス整備計画の策定に取り組んでいます。

収支の概要

収入について

2008年度の収入の概要は、以下のとおりです。

(金額は、すべて概算額です。)

(1)「学生生徒等納付金収入」

36億5千万円

新入生、在学生から納めていただく入学金、授業料、実習費等の学費です。本学における、主な財源となっています。

(2)「手数料収入」

5千万円

入試の検定料や成績証明書等、各種証明書の発行手数料です。

(3)「資産運用収入」

1億2千万円

「建物等減価償却引当特定資産」等の資産の運用利息収入です。安全性と効率性を勘案し、預金や国債で運用しています。

(4)「事業収入」

4千万円

琵琶湖セミナーハウス・東京麻布台セミナーハウスの利用料や、留学生宿舍(I・S・D・花園、I・S・D・布施)の寮費収入等です。

(5)「その他の収入」

2億1千万円

教職員への退職金の支払いや、修繕工事のために、「退職給与引当特定資産」(教職員の退職金の支給のために積立てている特定資産)、「建物等修繕引当特定資産」(長期修繕計画に基づき、修繕費を積立てている特定資産)等の特定資産の一部を取り崩した、繰入収入です。

(6)「前年度繰越資金」

26億8千万円

2007年度からの繰越資金です。

支出について

2008年度の支出の概要は、

以下のとおりです。

(1)「人件費支出」

20億円

専任教職員や非常勤講師、嘱託職員・契約職員等に支払われた給与等です。

(2)「教育研究経費支出」

7億7千万円

教育、研究に直接要する経費であり、主な内容は、①電気、水道料金等の光熱水費が8千万円、②各種奨学費への支出が8千万円、③特修講座や資格講座等の開講費用が8千万円、④クラブ等課外活動への支援が2千万円、⑤初年次の大学演習への上級生スタッフやゼミ運営補助関連支出が1千万円、⑥ポータルサイトや電子シラバスシステムの改修に1千万円等となっています。

(3)「管理経費支出」

3億4千万円

庶務、人事、経理等、大学の管理運営に要する経費や、

(4)「施設・設備関係支出」

7千万円

施設の拡充のための支出や教育研究用の機器備品・図書・その他固定資産の購入費等です。

(5)「その他の支出」

4億8千万円

「退職給与引当特定資産」、「建物等減価償却引当特定資産」(建物及び構築物の減価償却分を積立て、建物等の建替えや施設等の充実に活用する特定資産)、「建物等修繕引当特定資産」への繰入支出等です。

(6)「次年度繰越資金」

31億円

次年度への繰越資金です。この繰越資金は、「大学将来対策引当特定資産」として、大学の将来の充実・発展のために活用します。

2008年度大学決算書

(2008年4月1日から2009年3月31日まで)

大阪経済法科大学

単位:千円

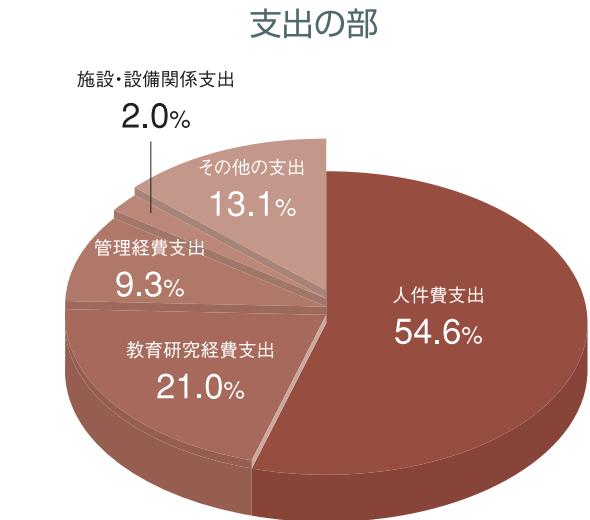
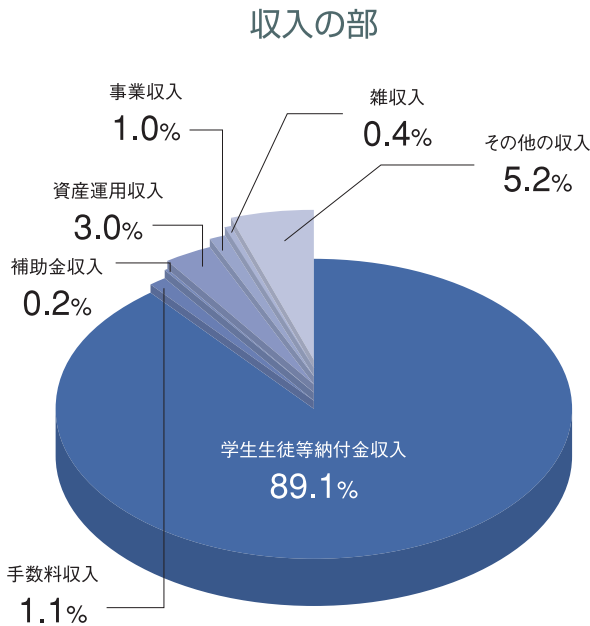
収入の部	
科 目	決 算 額
学生生徒等納付金収入	3,650,103
授業料収入	3,465,230
入学金収入	172,480
実験実習料収入	8,913
その他納付金収入	3,480
手数料収入	46,929
補助金収入	8,104
資産運用収入	122,117
資産売却収入	1,131
事業収入	39,580
雑収入	15,928
その他の収入	211,283
退職給与引当特定資産からの繰入収入	157,641
建物等修繕引当特定資産からの繰入収入	40,060
貸付金回収収入	13,458
保証金回収収入	124
前年度繰越資金	2,682,525
収入の部合計	6,777,700

支出の部	
科 目	決 算 額
人件費支出	2,006,098
教育研究経費支出	771,156
消耗品費支出	69,899
光熱水費支出	82,171
旅費交通費支出	28,321
奨学費支出	76,187
学生厚生費支出	19,427
印刷製本費支出	38,855
修繕費支出	37,716
賃借料支出	17,466
報酬委託手数料支出	240,274
学生活動補助金支出	4,700
その他教育研究経費支出	156,140
管理経費支出	341,481
消耗品費支出	5,228
光熱水費支出	3,346
旅費交通費支出	12,613
印刷製本費支出	54,634
修繕費支出	5,538
賃借料支出	5,424
報酬委託手数料支出	28,947
その他管理経費支出	225,751
施設・設備関係支出	73,658
その他の支出	480,683
退職給与引当特定資産への繰入支出	101,482
建物等減価償却引当特定資産への繰入支出	279,101
建物等修繕引当特定資産への繰入支出	100,000
その他支出	100
次年度繰越資金	3,104,624
支出の部合計	6,777,700

2008年度特定資産期末残高	
退職給与引当特定資産	1,956,446
建物等減価償却引当特定資産	5,655,429
建物等修繕引当特定資産	820,046

※この2008年度大学決算書は、本学が予算管理目的のために設定している「大学の予算」の執行結果を勘定科目別に表示したものです。

収支構成図



証券・保険会社提供 寄付講座を開講

みずほインベスターズ証券(株)と東京海上日動火災保険(株)、保険工房(株)ヤトウジ保険センターの3社共同による寄付講座が、8月から9月にかけて集中講義形式(各15回)で開講され、一般市民にも公開講座として開放されました。

経済学部会計ファイナンスコースの専門科目として開講された寄付講座は、証券・保険会社の社会的役割やその仕組、また金融商品を活用した多様なライフプランニングなど、金融の基礎知識の習得とともに、それぞれのビジネスの実態を理解してもらうと開講されたものです。

みずほグループによる寄付講座は、これまでに東大・京大・早稲田大・慶応大などで、開講されましたが、本学で開講された「証券論特講」(8月



寄付講座「証券論特講—初めての資産管理教室—」

24・27日)では、「初めての資産管理教室」と題して、証券アナリスト、エコノミスト等の専門家が、債券・証券・投資信託等の商品概要、経済動向の読み方、分散投資の考え方などを分かりやすく解説されました。特に現地調査に基づく世界経済動向や業界展望は、雇用情勢の冷え込みが続く中、就職活動を続ける学生たちにも示唆を与える内容となりました。

今回の寄付講座は、現場を熟知した実務者、専門家ならではの実践的な内容となり、事前の受講登録者数も160名(2講座)を越え、グローバル化が進む金融経済への関心の高さを裏付ける結果となりました。

地域IT講習会を開講

7月26日(日)・8月23日(日)に2日間にかけて、本学6号館で、地域IT講習会が開講されました。

この地域IT講習会は、本学が地域社会の情報化推進の一翼を担うことを目的に過去10年にわたり開催しているもので、これまで近隣地域から延べ約5000名が参加しています。



熱心に講習を受講する受講生

「大阪中学生サマー・セミナー」開催 本学から3講座を提供

7月25日(土)・26日(日)の2日間、「平成21年度大阪中学生サマー・セミナー」が開催

され、本学が提供した3講座に大阪府下の中学生延べ25名が参加しました。

このサマー・セミナーは、21世紀を担う中学生たちに、学ぶことへの関心を高めてもらうとともに、豊かな人間性や社会性を身につけてもらうと、大学コンソーシアム大阪等の主催のもと、毎年開催されているものです。

今回は、環境保全活動について学ぶ「環境問題について楽しく学ぼう」、日本映画のオリジナルとハリウッド映画のリメ



講師の話に耳を傾ける中学生たち

イクを比較し、それがどのような日米関係を描いているのかについてクイズ形式で学ぶ「映

学術交流講演会を開催 「日本の官僚制度の問題点とは何か」

画リメイククイズ「古代の「なになに」を法制史という観点から学ぶ」なにの宮と奈良の都」の3講座が開講されました。

松室猛氏(地域総合研究所客員教授、元大阪府議会議員)を講師にお招きし、地域総合研究所主催による学術交流講演会「日本の官僚制度の問題点とは何か」が、7月29日(水)、

本学6500号教室で開催されました。

講演会において松室氏は、律令時代の太政官に起源を発する「官僚」が、明治から戦後期の発展の推移の中でどのような役割を果たし、どのように政治に影響を与えてきたのかについて検証するとともに、現行の三権分立制度の問題点と今後の抜本改革の可能性について、実際に府議会議員として活動されてきた経験からの示唆深い意見も交えながら、解説が行われました。

『刑事弁護士が語る裁判員裁判—ナニワの法廷から—』を刊行



『刑事弁護士が語る裁判員裁判—ナニワの法廷から—』(村下博・岩村等・山口健編)が、大阪経済法科大学出版部から7月に刊行されました。

本書の内容は、本年5月21日の裁判員制度の施行を前提にして、①裁判員制度の概要、②刑事裁判の一般的概要と刑事弁護人の役割、③個別の刑事事件(死刑事件・外国での事件・交通犯罪・少年事件など)の3本柱からなっています。大阪弁護士会に所属する9人の弁護士による弁護活動の体験を

とともに叙述しており、具体的に極めて説得力に富むものとなっています。

なお、本書は、2008年度春学期に開講された「地域社会と法」(法学部開講科目)の講義をもとに、大阪経済法科大学副学長・故村下博法学部教授、同学長補佐・岩村等法学部教授、山口健法学部客員教授(弁護士)の3名によって、市民と学生の皆さんに分かりやすいように口語体で編集されています。

裁判員裁判が本格的にスタートした今年、本書は市民と学生の皆さんに是非読んでいただきたい1冊です。

<お問い合わせ先>
大阪経済法科大学出版部
TEL 072-941-8211(代表) 内線323

新情報

FD研修会を開催

7月29日(水)、大学教育開発支援センター主催のもと、鈴木克明教授(熊本大学大学院社会文化科学研究科 教授 システム学専攻長)を講師に迎え、教職員FD(教育力の向上活動)研修会「大学教育改善と授業デザイン力」が開催されました。

FD推進を「教育の質保証」、「教育の情報化」の観点から、検討する機会として、多くの教職員が参加しました。

現役教諭である 本学卒業生を迎え、 教職課程講演会を開催

6月24日(水)、教職課程履修学生への学習指導と教師という職業を理解することを目的に、教職課程講演会が開催されました。

今回の講演会には、本学卒業生で、硬式野球の名門校と

して有名な大阪のPL学園高等学校で「日本史」の教鞭をとられている藤原弘介教諭(1997年・法学部卒)を講師に迎え、「教師という職業について」というテーマで講演をいただきました。

当日は、教職課程履修学生を中心に約30名の学生が出席し、学生時代の様子や教員を目指した動機・経緯、教師としての喜びや悩みなど、多岐にわたる内容に熱心に耳を傾けていました。また、講演会終了後も活発な意見交換が行われました。



在学生に真剣に語りかける藤原教諭

平成21年度 科学研究費補助金採択一覧(新規)

今年度、本学に所属する教員・研究者3名が、新たに科学研究費補助金の交付対象者として採択されました。これにより、計9名の教員・研究者に、科学研究費補助金等の研究助成金が交付されます。今後、教育・研究活動面でのより一層の発展が期待されます。

所属(職名)	氏名(研究代表者)	研究年度	研究テーマ
アジア太平洋研究センター(教授)	武者小路 公秀	2009年～2012年	市民社会による移住者コミュニティ受容の日韓比較:人間安全保障の観点から
アジア太平洋研究センター(客員教授)	内海 愛子	2009年～2011年	真珠・ナマコをめぐるモノとヒトの移動と国際関係
アジア太平洋研究センター(研究員)	松原 弘子	2009年～2011年	性教育・エイズ教育に携わる専門職の性意識に関する質的研究

※科学研究費補助金とは

人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。(日本学術振興会HPより)

校友会だより

校友会設立10周年記念 第11回大阪経済法科大学校友会総会

7月25日(土)、校友会設立10周年記念事業として、第11回大阪経済法科大学校友会総会及び懇親会が、大阪市中央区にあるスイスホテル南海大阪で開催されました。当日は、全国から多くの校友が参加し、教職員・在学生、関係者をあわせ200名を越す参加者が会場に足を運びました。



伴井敬司校友会会長

総会に先立ち、校友会設立時から校友会活動を献身的に支え、指導していただいた村下博副学長(法学部教授・常任幹事)、福本憲男先生(大阪経済法科大学名誉教授・常任幹事)の逝去を悼み、参加者全員で黙祷が捧げられた後、伴井敬司校

友会会長から開会の挨拶、校友会顧問である藤本和貴夫学長から大学の近況報告と大学の目指す今後の方向性が語られました。引き続き、「2008年度事業報告及び収支決算書」、「2009年度事業計画及び収支予算書」について、報告・説明が行われた後、2009年度校友会新役員の紹介が行われました。

校友会設立10周年を記念して開催された今回の総会では、昨年、和歌山県文化奨励賞を受賞したJ-POPアーティスト「ウインズ」の平阪佳久氏(1981年・経済学部卒)をはじめ、この間の校友会活動にご尽力いただいた先生方に感謝状と記念品が贈呈され、第11回校友会総会は、厳粛な雰囲気の中、閉会となりました。

島田洋七氏を講師に迎え 特別講演会を開催

総会終了後、校友会設立10周年記念特別講演会が開催され、『佐賀のがばいばあちゃん』

の著者で漫才コンビB&Bとして一世を風靡した島田洋七氏を講師に迎え、「私が経験した天国と地獄」というテーマで講演が行われました。

旧友との再会を懐かしむ同級生の輪、先輩・後輩の輪、卒業生と教員の輪が見られました。歓談の間に行われたクイズ大会や大抽選会などでは、回答者の珍回答や準備された豪華賞品に参加者たちが一喜一憂し、会場内は大変な盛り上がりを見せていました。

旧友との再会を懐かしみ 思い出話に 花を咲かせた懇親会

総会、特別講演会終了後に行われた懇親会は、吹奏楽部による演奏で参加者を会場に迎え入れた後、伴井会長、濱田亜紀幹事による和太鼓演奏で幕を開けました。

懇親会では、今年度新たに校友会副会長に就任した八瀬林肇氏の開会挨拶に続き、田中誠太八尾市長、山中富美子教育後援会会長から、祝辞が述べられました。その後、安田公治副会長の乾杯の挨拶で懇親会がスタートすると、会場の至る所で



懇親会の最後は、校友会副会長である能塚正義学長補佐から閉会の挨拶が行われ、参加者全員による学歌「われらが白き学舎に」の斉唱で、懇親会は盛会のうちに終了しました。



フィールドワークや八尾市役所訪問などのプログラムが用意され、韓国、中国、ロシアの多くの学生たちは初めて訪れる日本の文化、伝統に触れることができました。

本学阪南キャンパスで行われた交流合宿では、スポーツやキャンプファイヤーなどを通じて、相互理解を深め、互いの親睦を図る貴重な時間を過ごしました。

歴史的にも地理的にも密接な関係にある東アジア地域の4カ国の学生たちが、共に学び、議論することで、将来に向けて建設的な関係を構築することができた有意義なセミナーとなりました。

中国・復旦大学から、金再勤研究員を7月24日から2ヶ月間受入れました。

日本滞在中は、本学を拠点に両国の高等教育機関の役割や運営について主に研究し、他大学にも訪問し聞き取り調査を行うなど、精力的に研究活動を展開しました。



中国・復旦大学から 研究者受入れ

協定大学から 交換留学生を受入れ

本学では、春学期、秋学期に海外協定校から交換留学生を受け入れています。2009年度秋学期は、下記のとおり10カ国・地域から18名の交換留学生を受入れます。

○2009年9月から(1年間)

康 路 (KANG Lu)	北京大学 (中国)
徐小明 (XU Xiao Ming)	遼寧大学 (中国)
朱一凡 (ZHU Yi Fan)	復旦大学 (中国)
姚 晟 (YAO Sheng)	復旦大学 (中国)
文 丹 (WEN Dan)	延辺大学 (中国)
杜晋元 (TU Chin Yuan)	中国文化大学 (台湾)
全鎔必 (JEON Yong Pil)	慶尚大学校 (韓国)
VOLGIN Dmitry Alexandrovich	ロシア極東国立総合大学 (ロシア)
KURIEN Asha Mary	デリー大学セント・ステイーブンスカレッジ (インド)
VU Thuy Thu	ベトナム大学ハノイ校人文社会科学大学 (ベトナム)
PAMITTAN Sheilla Litttau	フィリピン大学 (フィリピン)
KANTASA-ARD Phimchanok	チュラロンコン大学 (タイ)
GANKHUYAG Uranbileg	モンゴル国立大学 (モンゴル)

○2009年9月から(6ヶ月間)

裴晟模 (BAE Sung Mo)	崇実大学校 (韓国)
金東承 (KIM Dong Seung)	同上
咸기역 (HAM Ki Yeok)	同上
黃權相 (HWANG Kwon Sang)	同上
李聖伶 (LEE Sung Ryoung)	同上

留学生との ボランティア語学講座

今年度春学期も留学生と日本人学生の「ボランティア語学講座」が盛況を呈しました。

この講座は、留学生と一般学生とが、それぞれの授業の空き時間を利用して日本語や外国語(母国語)を互いに教え合うもので、今年度は55講座、120名余りの学生が



参加し、毎週1回、国際部交流室で実施されました。内容は、日本語会話30講座、英語4講座、中国語15講座、韓国語6講座で、学生たちは語学だけの習得だけでなく、互いの国の歴史や文化についても学ぶことができました。

秋学期も新たに募集を行い、新規の語学講座も多数開講される予定です。受講希望者は希望時間や希望の語学コースを国際部にお申し込みください。

申込みなど、詳しい問合せは国際部まで E-Mail:kokusai@keiho-u.ac.jp

基調講演後に行われた質疑応答



『貧困削減と人間の安全保障』をメインテーマに活発な議論を展開

8月22日(土)、大阪プログ

が、韓国・ソウル、日本・大阪、中国・上海の3カ国で開催されました。

今年で3回目を迎える本セミナーは、東アジア地域に共通するさまざまな社会問題に、学生たちが正面から取り組むと同時に、互いの友好関係を構築することを目的に開催されているものです。また、今年は昨年までの日中韓3カ国の学生に加え、ロシア極東国立総合大学の学生を新たに迎え入れ、よりグローバルな視点から多角的な議論が展開されました。

ラムのメインプログラムである基調講演が行われ、本学アジア太平洋研究センター所長である武者小路公秀教授(元国連大学副学長)から、「Incorporating the Concept Human Security into Poverty Reduction(貧困削減と人間の安全保障)」について、京都大学大学院文学研究科助教である青山薫氏から「Trafficking in Women as Global Class Struggle(解決への道を探る―女性への人権侵害と人身売買―)」について、それぞれ英語による講演が行われました。

今回のセミナーでは、それぞれの国の経済・法律など、社会制度への理解に基づいたアプローチを試みるという従来の

の目的を維持しつつ、世界的なテーマとなっており、難問にあえて取り組みました。4カ国の学生たちは、講演会終了後の質疑応答や翌日に行われた学生発表、グループディスカッションにも意欲的に参加し、自国の経済と社会のあり方とともに、世界的課題の解決に向けて、建設的な議論が交わされました。

フィールドワークで異文化を体験

大阪プログラムでは、基調講演以外にも京都、神戸での



学生発表を行う参加者

「姉妹校国際学生交流セミナー2009」開催
国境を接する国の新しい世代が集い、世界の諸課題について考える。



小林穂奈美さん

(経済学部・1年生)

オリンピック出場を
目標に
テコンドーの練習に
励む毎日
大変だけど、
充実しています。

充実した練習内容で成長を実感しています。

私がテコンドーを始めたのは、小学校4年生の時です。兄がテコンドーを習っていて、技が決まった時の格好良さに惹かれ自分でもやってみたいと思ったのがきっかけでした。テコンドーは、さまざまな型や技(特に足技)を織り交ぜて攻撃し、ポイントを重ねていく競技です。足技や手技、立ち方など、基本動作が全部で約3,200種類もあり、技術を高めることはもちろん、精神面も鍛えられる競技です。

大学のテコンドー部は、1992年のバルセロナ五輪に山下博将テコンドー部監督(教務課主任)を日本代表選手として輩出しているほか、数多くの国内外の大会にも出場し、優秀な成績を残しています。元日本代表のコーチもあり、練習では技術指導のほか、試合に臨む際のメンタル面に関するアドバイスも受けたりすることができ、新しい技や攻撃のかわし方、体調面・精神面での自己管理の方法なども習得することができました。大学に入学してからまだ5ヶ月ほどですが、新しい技も使えるようになり、自分でもわかるほど技術面・精神面でのレベルが向上していますね。

国際大会を通じて、更なる技術の向上を目指します。

今年の7月、セルビア・ベオグラードで開催された第25回ユニバーシアード競技大会に、日本代表として参加しました。この大会は、国際大学スポーツ連盟が主催する全世界の学生の総合競技大会で、2年に一度開催される別名「学生のオリンピック」と呼ばれるものです。残念ながら初戦で負けてしまいましたが、練習でしてきたことを出すことができ、今までの大会で一番納得できる内容でした。

10月の世界選手権(デンマーク)、12月の東アジア競技大会(香港)にも日本代表として出場予定です。ユニバーシアードで対戦した選手も参加するので、今まで以上に厳しい練習を積んで、最高の結果を出せたらと思っています。

2年後のロンドンオリンピック出場が目標です。

今の一番の目標は、2年後に開催されるロンドン五輪に出場することです。1年後には選考会を兼ねた大会が始まるので、今からそこに照準を合わせて、平日は大学で毎日練習し、土曜日は道場でも練習しています。体力的にも精神的にも追い込まれ、くじけそうになる時もあるのですが、明確な目標があるからこそ、充実した気持ちで厳しい練習にも取り組むことができます。そして、遠征や合宿などで国内外を飛び回る毎日ですが、監督やコーチをはじめ、周りで支えてくれる方々、大学のサポートには本当に感謝しています。



厳しい練習をこなす小林穂奈美さん(左)

テコンドー競技は、まだ認知度の高いスポーツと言えないかもしれませんが、私の活躍を通してこの競技の面白さ、奥深さを知ってもらえたら嬉しいです。これからも皆さんに応援してもらえよう、一生懸命頑張りたいと思います。